

## 第55回農林水産祭



農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人 日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施されています。

過去1年間の農林水産祭参加表彰行事(296行事)において農林水産大臣賞を受賞された方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞が選ばれます。

今年度、林産部門では、天皇杯を八頭中央森林組合(鳥取県八頭郡八頭町)、内閣総理大臣賞を橋本光治氏・橋本延子氏(徳島県那賀郡那賀町)、日本農林漁業振興会会長賞を齋藤豊彦氏(宮城県東松島市)が受賞されました。

**「受賞者のことば」** このたびの平成28年度(第55回)農林水産祭における栄誉ある天皇杯は、戦後造林を進めてこられた地域の先人の努力と組合員、役員、地元関係者が一丸となって取り組んだ成果に対し賜ったもので、ご指導ご支援いただいた林野庁をはじめ鳥取県、管内市町村や関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

管内の間伐実施率はいまだ十分とは言えず、平成32年度間伐材生産量10万m<sup>3</sup>を目標とするアクションプログラムを策定しました。今後も、「手入れされた山を次世代に引き渡す。」ことを使命として、微力を尽くしますので皆様の変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いいたします。



八頭中央森林組合(代表 前田 幸己氏)

(鳥取県八頭郡八頭町)

八頭中央森林組合は、八頭町、若桜町及び鳥取市の一部を管轄する鳥取県最大の広域森林組合であり、平成19年から利用間伐主体の経営へ転換し、コスト意識を持って森林施業の集約化と路網等の基盤整備を進めています。一定の木材生産量を確保しつつ循環的利用が可能となる森林を、次世代へ引き継ぐことを将来の目標とし、地域全体の事業量・雇用拡大にも貢献しています。

集約化による効率的な事業を展開、地域全体の事業量・雇用拡大に貢献

平成28年度天皇杯

11月11日(金)・11月12日(土)

## 「実りのフェスティバル」

農林水産祭啓発行事として恒例の「実りのフェスティバル」が開催されました。(東京都豊島区)

「実りのフェスティバル」では天皇杯等の受賞者の紹介をするとともに、様々なコーナーが設置され、林野庁も「木づかい運動」、「木育」などのパネル・ポスター、国産材を使った木の食器やおもちゃなどの展示や、ウッドデザイン賞の紹介を行いました。ブースには親子連れなど多数が訪れ、木製品の香りや手触りなどを実感いただきました。

また、各都道府県や農林水産団体のコーナーでは、郷土特産物の展示、販売等に注目が集まっていました。さらに、会場には全国各地の人気ゆるキャラ達が応援に駆けつけ、イベントを盛り上げていました。



林野庁ブースでは「木の良さ」をアピール



賑わいを見せる都道府県コーナー



### 橋本 光治氏・橋本 延子氏

(徳島県那賀郡那賀町)

昭和53年に先代から森林経営を引き継ぎ、作業道の開設を通じて、森林保全と長伐期優良大径材生産を軸とした、針広混交林の森林づくりを行なっています。地形・地質や雨水処理を考慮した丈夫な作業道を高密度で整備することにより、全ての施業を家族で行うことができ、間伐・択伐によって収入を得る非皆伐施業を実現しています。

家族経営専門林家による自然と調和した高密度路網と美しい森林づくり

平成28年度内閣総理大臣賞



### 齋藤 豊彦氏

(宮城県東松島市)

昭和61年に家業を引き継ぎ、スギやヒノキの優良苗木(裸苗)の生産を行っていましたが、平成23年に東日本大震災の津波により苗畑が被災。翌年の収支は大きく落ち込みましたが、コンテナ苗の生産技術向上等の経営改善によって苗木生産量を回復し、平成27年は大幅な収益増加。近年は海岸防災林の復旧へ向けクロマツを主に生産するとともに、少花粉スギの生産にも取り組んでいます。また、研修講師を務めるなど技術の普及にも貢献しています。

コンテナ苗の生産技術の確立に取り組み、海岸防災林の復旧に貢献

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞

平成28年度(第55回)

農林水産祭天皇杯等の選賞について(農林水産省HP)

<http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/bunsoyo/161019.html>